



株式会社ウェッジホールディングス
2012年 2月 会社説明会

2012年 2月23日



www.wedge-hd.com



Contents

- **当社の概要**
 - 会社概要
 - グループの構成
 - 事業構成
 - 沿革
 - 改革による事業構造変化と成長
 - 連結業績の推移(直近5期)
- **2012年9月期 第1四半期決算内容について**
 - 連結経営成績(P/L)
 - 国内事業トピックス
 - 海外事業トピックス①
 - 海外事業トピックス②
 - 海外・国内での売上構成
 - 前年同期の売上との比較
 - 海外・国内別での営業利益
 - 連結利益の主な差異要因
 - 2012年9月期 連結財務状況(B/S)
 - 2012年度連結通期業績予想と進捗
- **今後の事業方針**
 - 今後の事業方針
 - 海外事業の方向性
 - 国内事業の方向性



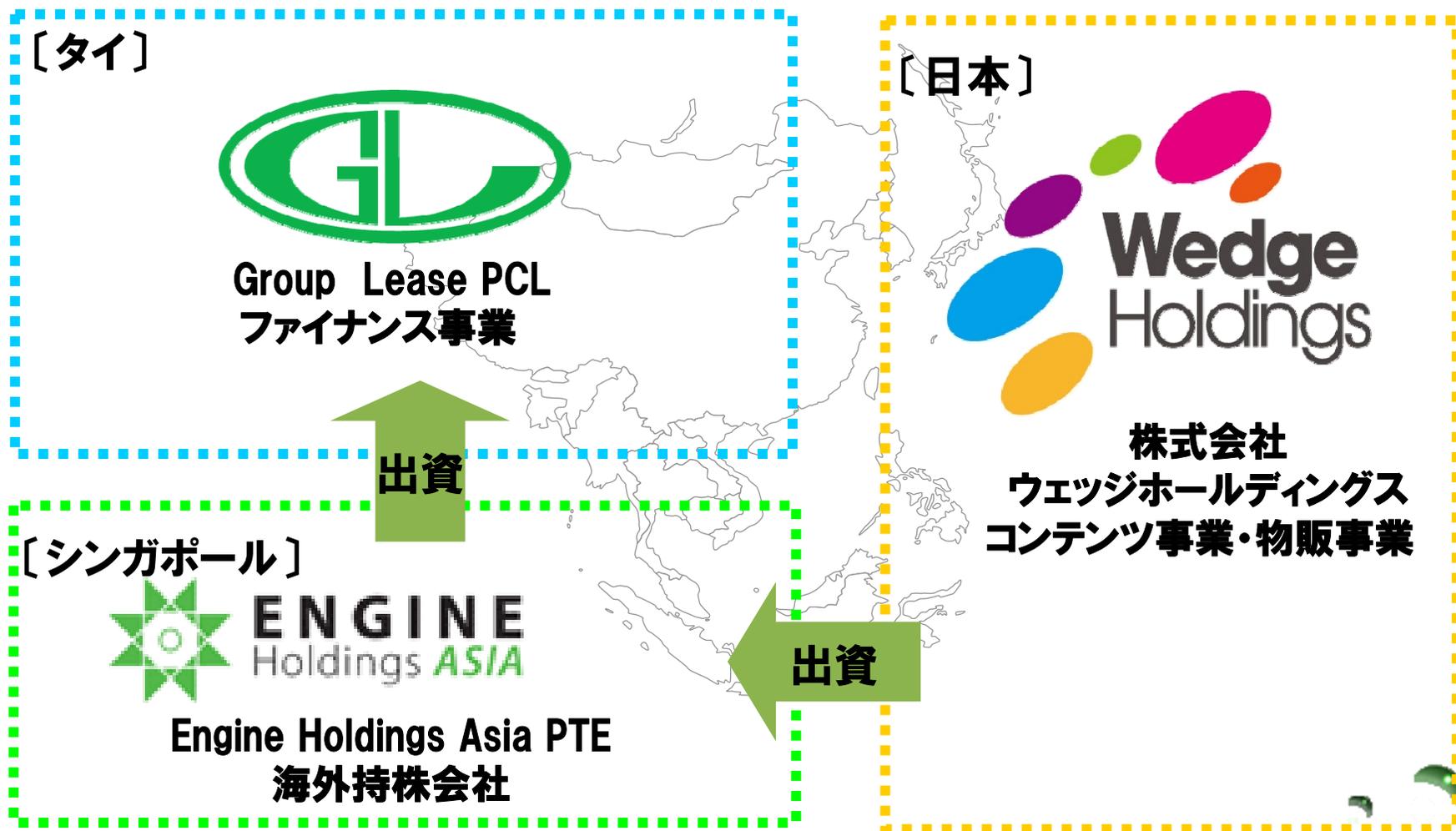
当社の概要

会社概要

❖ **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)

- **設立:** 2001年10月
- **資本金:** 1,939,143,700円
- **上場市場:** JASDAQ グロース
- **代表者:** 代表取締役会長 此下竜矢
代表取締役社長 田代宗雄
- **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4
Daiwa日本橋本町ビル
- **従業員数** 271人(うち海外193名)
※グループ全体・2011年9月末時点
- **主要なグループ会社**
 - **海外子会社** Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)
 - **持分法適用関連会社**
P.P. Coral Resort Co.,Ltd(タイ)
Engine Property Management Asia Co.,Ltd.(タイ)

グループの構成



事業構成

海外事業

ファイナンス事業

- ❖ オートバイファイナンス
(タイ国内)



国内事業

コンテンツ事業

- ❖ カードゲーム
- ❖ 書籍制作・出版
- ❖ 音楽事業



物販事業

- ❖ 海外キャラクター
商品の卸売・小売

前期までの「投資育成事業」は、海外を中心にしたグループの成長投資機能としてのM&A活動に移行していたことから事業セグメントとしては廃止

沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
 - » 翌年に向け、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に

2001～2004

設立と
上場期

2005～2007

業績
低迷期

2008～2011

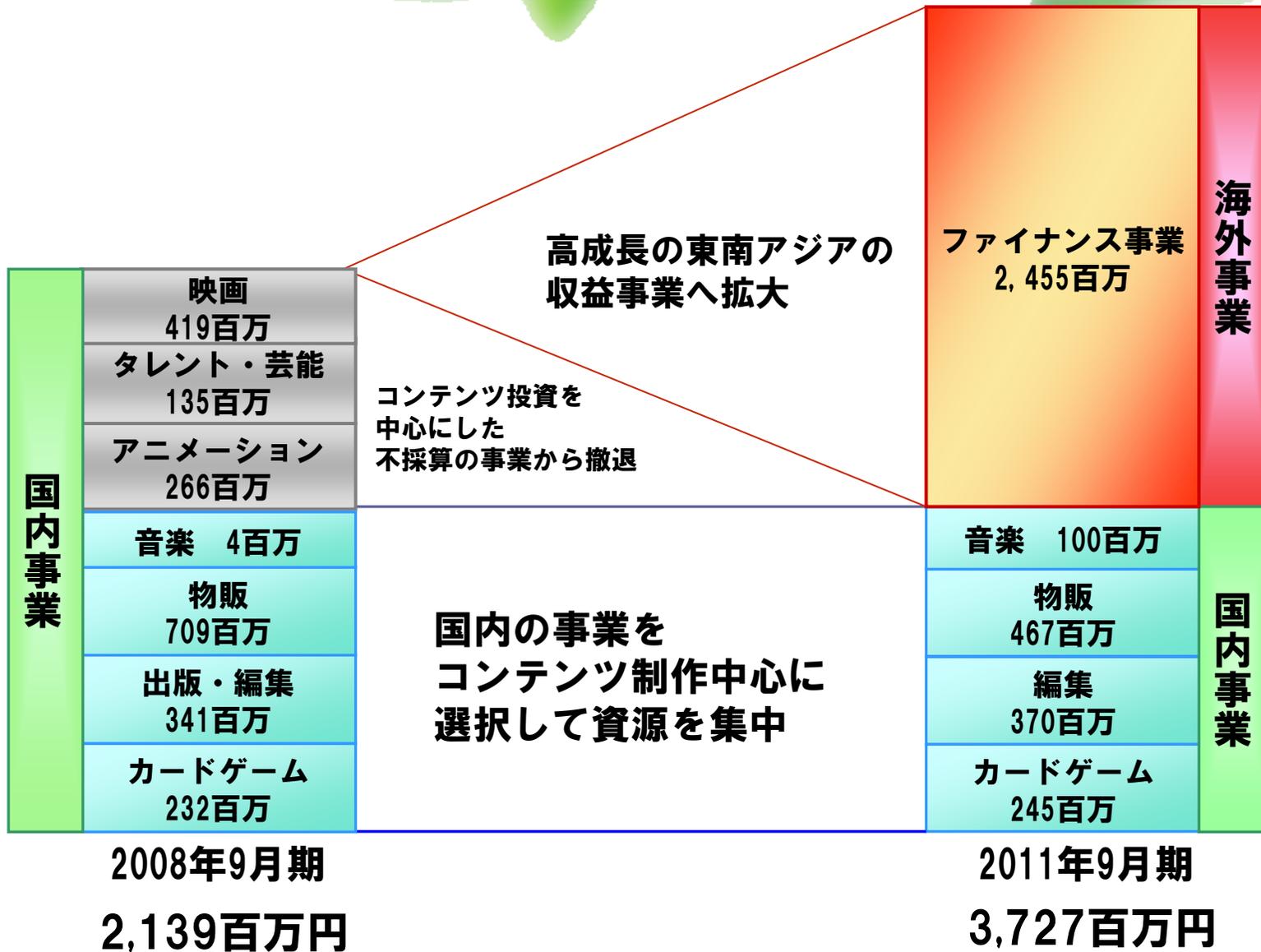
経営
改革期

2012～

新たな
成長へ

- 2007年12月 経営体制を変更、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換
- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤に
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に拡大

改革による事業構造変化と成長

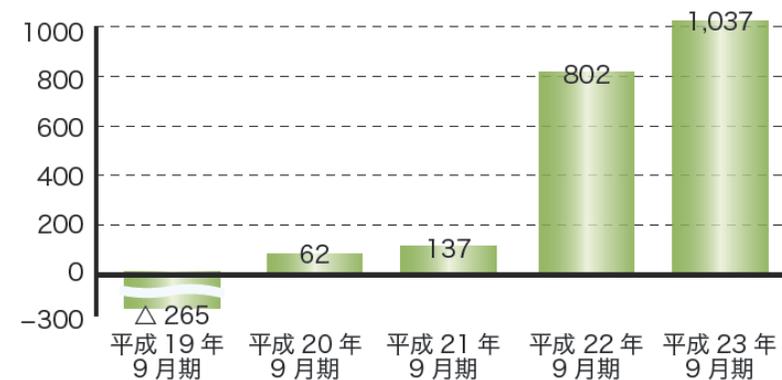


連結業績の推移(直近5期)

売上高推移

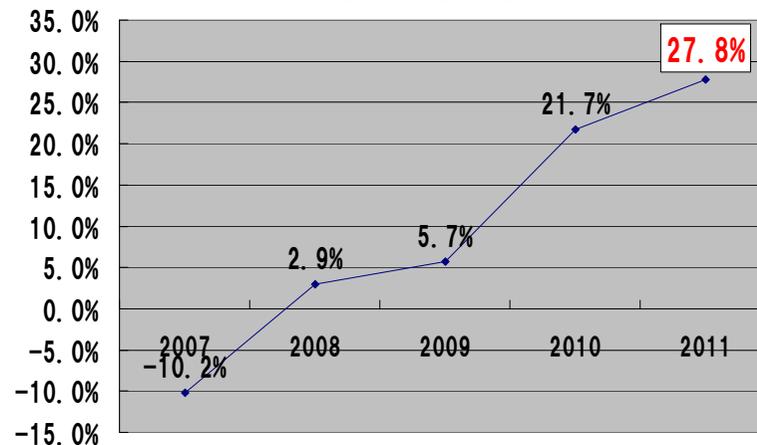


営業利益推移



(単位：百万円)

営業利益率



- 2008年(平成20年)の営業黒字化以後、海外事業を中心に業績伸長。
- 国内不採算事業の整理で国内事業も着実に利益改善、改革の成果が現れる段階に。

**2012年9月期
第1四半期 決算内容について**

連結經營成績 (P/L)

(單位：千円)

	2011年9月期 第1四半期	2012年9月期 第1四半期	対前年比
売上高	978,840	800,947	81.8%
営業利益	293,967	231,774	78.8%
經常利益	256,091	220,186	86.0%
四半期純利益	52,509	11,159	21.3%

国内事業 トピックス

(単位：百万円)

国内事業	2011年第1四半期	2012年第1四半期	前年同期比
売上高	335	315	94.03%
営業利益	53	79	149.06%

主力事業が好調、選択と集中で増益達成

- 事業撤退の影響で減収だが、コンテンツ制作を中心に、注力した事業で大幅に増益を達成
- ❖ **カードゲーム事業**
 - コンテンツの主力のカードゲーム制作は好調を持続、手がける複数のカードゲーム作品が過去最高売上を達成
 - 制作に伴うロイヤリティ収入も増加、高収益が持続
- ❖ **編集事業**
 - 前期の従来型出版の縮小で減収要因。編集制作に注力して、制作数は増加中
- ❖ **物販事業**
 - 市場低調で減収だが、取り扱い商品群拡大に注力。シェアの高い商材を強化中。
- ❖ **その他事業**
 - 前期不採算だったスポーツ関連事業は親会社グループとの協業体制に移行

海外事業 トピックス①

Group Lease PCLの四半期業績(タイバーツ建)

(単位:百万バーツ)

	2011年第1四半期	2012年第1四半期	前年同期比
売上高	235	196	83.4%
営業利益	102	90	88.2%
税引前四半期純利益	102	92	90.2%
四半期純利益	71	46	64.8%

- ❖ 洪水の影響が直接的に発生したが利益影響は限定的
 - 洪水期間中、新規契約数は大幅に減少
 - 昨年春に経営体制を刷新した際に契約が一時低下した影響もあり、前年比で売上が低下
 - 一部の貸付回収に遅れはあったものの、実質的利益影響は発生せず
- ❖ タイの法人減税で繰延税金資産が減少、減益影響が大
 - タイ政府の国際競争力強化支援策で2012年からの法人税率が30% → 23%(2013年には20%)へと大幅引き下げで、繰延税金資産が減少する会計処理が発生
 - この四半期の法人税等調整額は約36百万バーツ(約90百万)
 - 第2四半期以降は税率低減で純利益増が見込めるも、第1四半期では大幅な減益効果に

海外事業 トピックス②

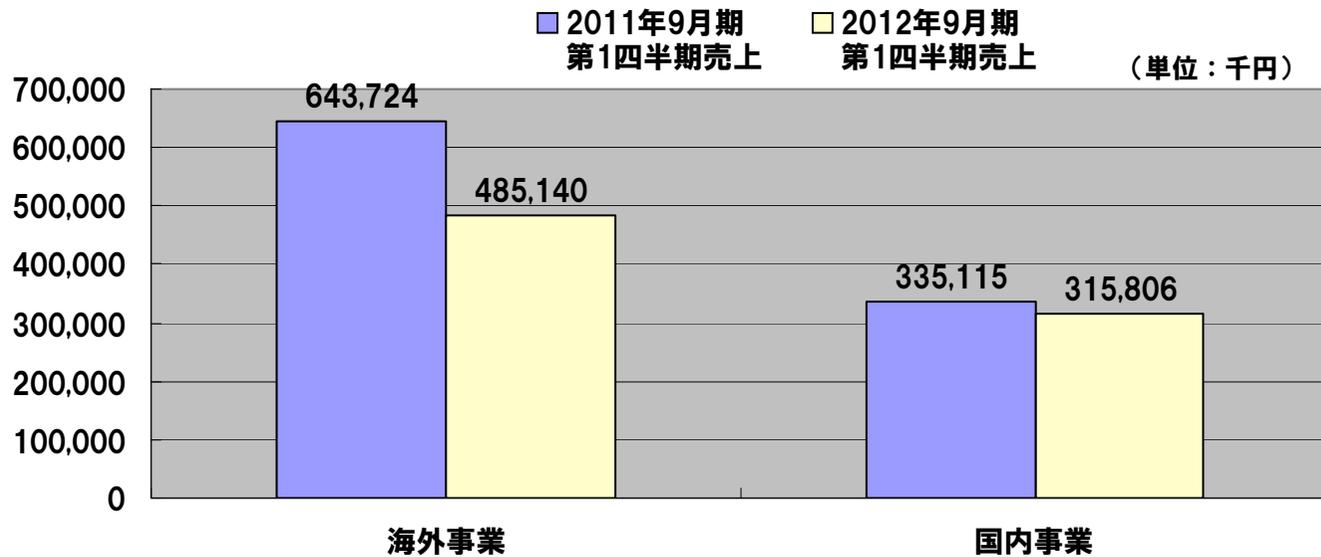
Group Lease PCLの四半期業績(円建)

(単位：百万円)

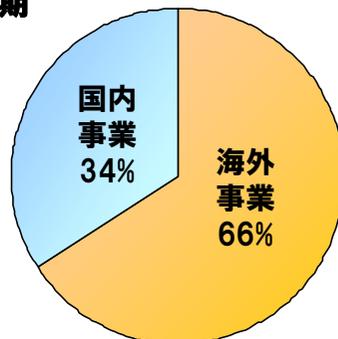
	2011年第1四半期	2012年第1四半期	前年同期比
売上高	643	485	75.4%
営業利益	280	222	79.3%
税引前四半期純利益	280	229	81.8%
四半期純利益	194	113	58.2%

- ❖ 前年比較では円高が大きく影響を及ぼす
 - 対前年比での為替レートでは2.73円から2.47円と10%近い円高が進行
 - 円建での売上・利益は大幅な減少影響
- ❖ 発行済新株予約権の行使による資本増強
 - 12月末時点で既存株主による新株予約権の行使で約148百万パーツ(363百万円)資本増強
 - 当社グループの持分は約40%に減少したことから、連結決算では持分変動損が31百万円発生
 - グループ持分比率は今後株式の追加取得により回復する方針

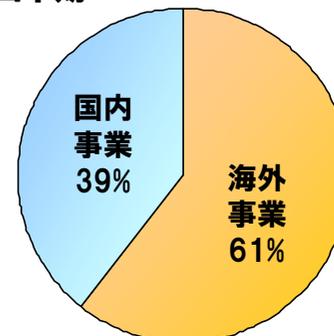
海外・国内での売上構成



2011年9月期
第1四半期



2012年9月期
第1四半期



前年同期の売上との比較

❖ 連結売上高

(単位：百万円)

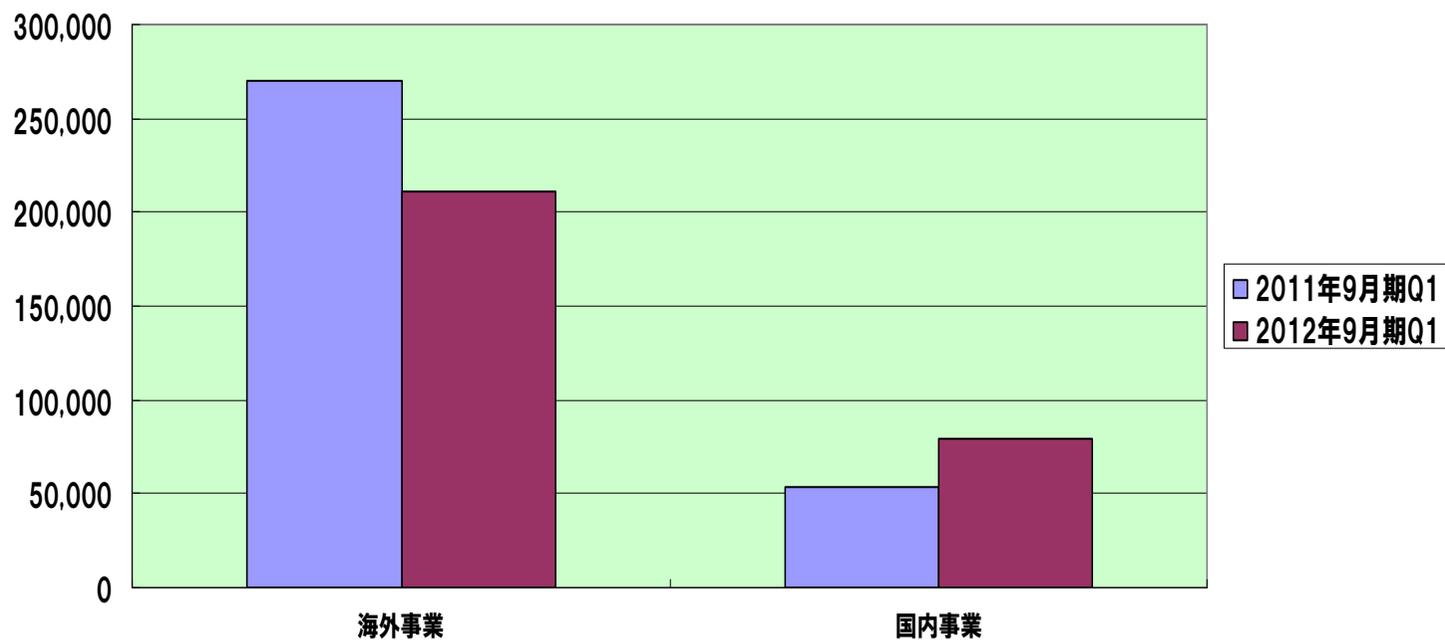
	2011年9月期 第1四半期	2012年9月期 第1四半期	差額	対前年比
売上高	978	800	-178	81.8%

- ファイナンス事業の売上 ▲107百万円に、国内で終了した事業と物販事業を合わせて売上 ▲42百万円が事業上の減収要因
- 国内コンテンツ事業は22百万円の増収で補う
- 海外売上に対しての為替差額が▲51百万円の相対的な売上減少効果に

海外・国内別での営業利益

(単位：千円)

	2011年9月期Q1	2012年9月期Q1	前年同期比
海外事業	270,201	211,272	78.19%
国内事業	53,967	79,010	146.40%
合計	293,967	231,774	78.84%



連結利益の主な差異要因

❖ 営業利益

(単位：百万円)

	2011年9月期 第1四半期	2012年9月期 第1四半期	差額	対前年比
営業利益	293	231	-62	78.8%

- 新規契約減少の影響でファイナンス事業の利益は▲ 33百万になっているが、それに加えて為替差額が▲ 23百万円と影響大。
- 前年同期には投資利益が23百万発生していた影響も減益効果
- 好調の国内コンテンツ事業は30百万の増益で連結利益を支える

❖ 四半期純利益

(単位：百万円)

	2011年9月期 第1四半期	2012年9月期 第1四半期	差額	対前年比
四半期純利益	52	11	-41	21.2%

- 最大の差異は繰延税金資産減少分の ▲ 90百万円、持分変動損失でも ▲ 31百万と事業面での変動を大きく上回る特殊要因に

2012年9月期 連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

連結貸借対照表	2011年9月期末	2012年Q1	対前期末比
流動資産	6,463,048	6,261,217	96.9%
固定資産	3,005,629	2,818,557	93.8%
(内) 投資その他の資産	2,515,537	2,368,539	94.2%
資産合計	9,468,677	9,079,774	95.9%
流動負債	2,602,416	2,245,600	86.3%
固定負債	929,327	549,914	59.2%
負債合計	3,531,743	2,795,514	79.2%
株主資本合計	4,561,767	4,572,927	100.2%
純資産合計	5,936,933	6,284,260	105.9%

2012年度連結通期業績予想と進捗

(単位：千円)

	2012年9月期 第1四半期実績	通期業績予想	比率
売上高	800,947	3,300,000	24.3%
営業利益	231,774	830,000	27.9%
経常利益	220,186	800,000	27.5%
当期純利益	11,159	230,000	4.9%

- ❖ 特殊要因の発生にも、売上高、営業利益、経常利益の進捗は順調に推移
- ❖ 繰延税金資産の減少の影響から当期純利益の進捗は遅れているが、2012年以降は回復を見込む
- ❖ 全体に海外収益への為替影響が大きい。前期末の想定時から現時点では円安傾向で推移。

事業そのものは順調、現時点では従来予想に変更なし

今後の事業方針

今後の事業方針

- ❖ 国内・海外双方で稼ぐ事業体制が確立
- ❖ それぞれの事業環境に合わせた成長路線を推進

東南アジア

洪水からの急回復と
新たな市場拡大へ

- ・タイ国内の経済は洪水から力強く回復
復興需要の取り込みにも期待
- ・経営体制刷新と資本増強を経て、
東南アジアの新市場をにらんだ
事業拡大をも検討

日本

「制作力」を
主軸にした成長へ

- ・コンテンツ事業の「制作力」を
コアコンピタンスとして収益性を強化
- ・事業ごとの課題対処も進めつつ、
安定的な売上成長と収益拡大へ



海外事業の方向性

❖ 洪水からの復興、シェア拡大へ

- 2012年2月3日にタイ中央銀行は2012年GDP成長予測を年4.9%に上方修正。復興需要は本格化。
- ホンダを初めとしたオートバイメーカーの供給も回復。旺盛な需要に応え、オートバイの市場拡大が見込まれる。
- 一時的に減小した新規契約は急回復を見込み、積極的なシェア拡大へ。

❖ 東南アジア市場全域を見た成長を志向

- 資本増強の結果、GLの負債比率は0.69の低水準。大規模な事業投資余力を確保。
- 前期に経営体制を刷新。新経営陣で事業拡大へ積極姿勢に。
- タイ以外の東南アジア各国で、人口動態、可処分所得面からも有望な市場が増加。GLの事業モデルの新市場展開を検討。



国内事業の方向性

❖ コンテンツ事業の「制作力」を主軸とした成長へ

- コンテンツへの投資を中心に、高リスクで展開していた事業は撤退完了

■ 主力のカードゲームを始めとした、受託型の事業の「制作力」に焦点を当てて資源の重点配置

- 資源の重点配置を進めることで生産性が向上中
- 制作力を活かした新しいタイプの受注が増加
 - 電子書籍：自社配信から受託制作に展開
 - 顧客層：大手SNS運営会社からの自社製作ゲーム用コンテンツ制作など、新取引先からの受注が増加

■ 物販事業では市場縮小への対処が課題

- 海外玩具市場の縮小が顕著で、新たな収益を模索中
- 雑貨等の取り扱い増のほか、取り扱いシェアの高いカテゴリーに注力



弊社IRに関するお問い合わせ先
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部
TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566
wedge-ir@wedge-hd.com
<http://www.wedge-hd.com>



※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。